

第2回グリーンイノベーション戦略協議会の検討状況 [報告]

1. 開催日程及び出席者

- ・ 平成24年6月4日(月) 13:00~15:00、金融庁12階共用第2特別会議室にて第2回グリーンイノベーション戦略協議会を開催。
- ・ 奥平委員、笠木委員、柏木委員(座長)、亀山委員、熊田委員、呉委員、斎藤委員、高橋委員、武田委員、松尾委員、松下委員、三村委員、村上委員、森川委員、安永委員、北城委員(専調委員)、久間委員(専調委員)、相澤委員(総科技議員)、大西委員(総科技議員)が出席。
関係府省からは、総務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省、内閣府からは、園田政務官、倉持統括官、中野審議官、大石審議官 他が出席。

2. 議事概要

(1) 開会挨拶(座長)

- ・ 経済産業省においてエネルギー基本計画の検討が進められており、選択肢が絞られつつあるなか、当協議会ではこれらの動向、も踏まえながらグリーンイノベーションの予算配分およびアクションプランを考えていかなければいけないと考えている。

(2) 議題

→議題(1) 第1回協議会を受けた論点整理については、資料1および資料2を用いて説明

→議題(2) 関係府省におけるグリーンイノベーションに係る平成25年度の方向性等については、資料3-1~3-7を用いて各省庁が説明(説明略)

→議題(3) 意見交換

<アクションプランの骨格>

- ・ 各分野の研究と社会インフラのグリーン化を統合するという考え方は非常によい。昨年のアクションプランの検討にも参加させていただいたが、要素技術を開発しても、それが最終的にどのように世の中に入っていくのか、あるいはいろいろな人々の生活を豊かにしていくのにつながるのかとか、というところがつながらなかつたような気がした。それが一体的に進むという考え方、逆に社会インフラのグリーン化というのがゴールの一つになるというのは、大変結構なのではないかと思う。
- ・ たたき台にはエネルギーのサプライチェーンに当てはめると、エネルギー供給を2つの段階、大規模集中と小規模分散ということで分けたことで、昨年度のたたき台に比べて非常にわかりやすくなった。焦点は真ん中の分散エネルギーシステムであり、システム改革に関わってくるため、一番つらい部分ではないか。
- ・ (社会インフラのグリーン化について) 1つ目は、CO₂の削減とエネルギーシステムの改善。2番目は安全・安心の確保。特に防災とか水資源の問題、食料生産、健康などの分野でどう対応するか。3番目は自然共生。4番目は高齢化社会への対応。総合的にこれらを解決するシステムをどう作るかが重要。環境都市の実現とはそういうことと考えている。
- ・ 社会への実装を考えたとき、どういう社会を対象としているのかイメージを具体化させる必要があるのではないか。それに応じて時間軸、時間ごとに目指すべき成果というのは変わってくるのではない

か。

- 社会のグリーン化に活かすかという視点がすごく重要になっている。我々の社会が今どういう状態にあるのかを示す情報提供機能ができれば、社会インフラのグリーン化全体に対する情報提供になるのではないか。
- 社会実装をしていくということには賛成。海外展開するためには、日本でしっかりと実装していないと世界からは信用されない。
- データが集まってきたことでそれがプラットフォームとなり、引いては新しい産業が創出されていく可能性があるので、諸々の分野で上がってきたデータを連携させていくことが重要。

<各省の説明に対する意見>

- 省庁の枠を超えた連携ということで、経済産業省と文部科学省の例はよい。道の活用（ITS、道路システムの最適化等）を考えるうえで、研究開発、実証、規制改革を行っていくには国土交通省、環境省、総務省などが連携していかないとできない。
- 今回、各省の話のなかで出てきた内容に関し、ITSなど過去にいろいろな取組をされているものもあった。それらについても一度、チェックをイノベーションの戦略協議会の場で行ってはどうか。
- 文科省の資料に観測や予測から、政策立案や社会提供まで行うとあるが、非常に膨大なデータがたまっているはず。それと、総務省で世界科学データプラットフォームなどというのは同じような話。そういうのが連携されて、それがさらに自治体などに活用されれば政策立案などに非常に有効な材料になるのではないかと思う。
- 先ほど来、産業規模や雇用規模などの話が出てきたが、各省庁でいろいろなデータを持っている。そういうデータをこの場で開示頂き、ディスカッションできるとよい。
- 各省には今までの取組ではなく、国家的危機にあるなかでグリーンイノベーションとして何を進めるべきか、その重要な政策課題を提示してほしかった。そのうえで細かな施策レベルではなく骨太の重点的取組を明示頂きたい。

<時間軸、達成時期>

- どの手段でどのくらい達成するかという大枠をつくった上で、それに向けて必要な予算をどう重点配分するかという視点がある。マイルストーンを作ってから資源配分をしては。
- 達成時期の議論の際には、技術開発とシステム改革あるいは社会実証も考慮した上で重点化するという観点が必要。
- 時間軸というのは個々の技術によって違っている。議論の段階では1回ロードマップみたいな工程表のような図表があった方が議論はしやすいのではないか。その際コストを含めて検討する必要がある。
- 重点化には時間軸以外に、効果と組み合わせで定量化する観点が必要。いつ、どういう効果があるか、それにはいくらかかるのかということ、それぞれの施策に対して定量化しない限り、重点は決まらないのではないか。省庁のそれぞれの施策については定量議論に持っていったらよい。
- それぞれのテーマがいつごろ、どういう具体的なものを目指したテーマであり、それが政策課題のど

の範疇に入るのか整理していただくと、今の時点で将来を見たときに目指すべき方向とやっていくべきところをもう少し明確に議論出来るのではないかと。

- ・ 今日の資料では全体の必要量みたいな大雑把な数字はあるが、当該プロジェクトがどのぐらい成果を上げようとしているのかというのは定量化して出されていない。全体のエネルギー供給の構図、あるいは省エネの構図の中でどの程度役割を果たせるのかを明確にしないと評価は難しい。
- ・ 重点化に絡んで出口の経済効果について言及されているが、その効果の測定は難しい。
- ・ イノベーションまでつなげるには産業界の役割は重要。イノベーションのフェーズと領域に応じて産業界がどういう役割を果たすのかが、シナリオの中にぼんやりとでも見えないと、課題解決であるとかイノベーションに結びつかない。地域の広がりイメージと産官学、特に産業界がどういう役割をそこで果たすのかが見えるような絵を描いてほしい。

<システム改革>

- ・ 様々なセクターの間に存在するギャップを克服して、ある種一貫通貫で統合的に研究開発を進めるといいう仕組みを何とかつくり上げなければいけない。
- ・ 2割ぐらいの予算はベンチャーキャピタル等への投資支援のような形で民間のノウハウを活用してみるとよい。
- ・ 普及に対して障害となるような規制等があるようなら、そういう点も含めて検討するべき。

→議題（４）その他連絡事項

地球観測等事業のフォローアップについて、資料４を用いて説明。（説明略）

園田政務官挨拶

- ・ この戦略協議会は産官学が一つのプラットフォーム中で議論頂く場ということで大変期待している。
- ・ 各省からの発表の中で連携という言葉があったが、単に情報交換や情報共有という位置づけでなく、どう連携すると具体的な実用化に向かうのか、様々な観点から皆様にご指導頂きたい。

3. 今後の予定

日時：7月2日（月）13:00～15:00

場所：中央合同庁舎第4号館12階全省庁共用1208特別会議室

議題：H25年度アクションプランの策定について、意見交換 他

以 上